

中3国語



1章

【問題】(演習)

出典…沢木耕太郎『神様のプレゼント』／04年 甲陽学院高・改題

解答

問1 (a)〳妨 (b)〳網渡 (c)〳奇跡 (d)〳搬入

問2 日常的な生活の場所〔9字〕

問3 何も起こらないことを望む旅人〔14字〕(9行目)

問4 筆者には、自分の身に起こった「予定外」のことをどこかで面白がるという性癖があったから。〔43字〕

問5 重傷の救急患者が次々と運び込まれてくる病院〔21字〕

問6 人生は予定通りには行かないものなので、予定通りに行かないその人生を楽しもうではないか〔42字〕

問7 C〳にもかかわらず D〳からこそ

理解を深める

旅は、何事においても予期せぬ何かが起きたときにそれを柔軟に受け止めることのできる自分を作ることを手助けしてくれるものである(と考えている)。(62字 (68字))

【添削課題】

出典…鷺田清一『悲鳴を上げる身体』／05年 愛光高校

解答

問1 A〓孤立 B〓埋没 C〓軽視 D〓換 E〓欠乏

問2 「お歌」や「お遊戯」はみんなと似た動作をしながらも、自分で自由にできる楽しさがあるが、「音楽」や「フォークダンス」は同じ動作をすることが求められ、個性を奪われる点でつまらないものである。(93字)

問3 みんなで同じような動作をすることで、他者の身体に起こっていることをいきいきと感ずること。(44字)

問4 (エ)

問5 無条件に他人から肯定される経験を持つことによって自分の存在価値を認めることができ、さらに他人をも自分と同じように価値のある者と認め、尊敬できるようにすること。

問6 (ウ)

理解を深める

学校や幼稚園では、他者と集団で活動する中で幸福の感情を感じながら他人の身体に想像をめぐらせ、自己を肯定しつつ他人を思いやる気持ち学ぶ。家庭では、自分がただここにいるだけで無条件に他人に世話をしてもらった経験から自己の存在の肯定感情が芽生え、他人もまた自分と同じ存在すべきものとして尊敬できる存在であることを学ぶ。近代社会ではこうして他者との関係の結び方を家庭と学校という二つの場所で学ぶのである。〔199字〕

3章

【問題】(演習)

出典：野矢茂樹『ことばが可能性を作る』／08年 大阪教育大学附属高校(池田)

解答

問1 a ㉡茶飯 b ㉡具象 c ㉡縮尺 d ㉡隅

問2 (ウ)

問3 ㉡

問4 X ㉡(エ) Y ㉡(ア)

問5 現物を実際に動かすのではなく、他の物を代理とすることで、現実世界を超えた思考が可能になるから。〔47字〕

問6 多様な組み合わせが可能な、分節化された言語を持たないから。〔29字〕

問7 人間は、言葉という記号を様々に組み合わせることができるので、反事実的な思考も可能な存在だということ。〔50字〕

問8 (イ)

理解を深める

私たちは現実にしたことをさまざまに考えることができる。この論理的な可能性をひらくためには、分節化されている対象を指しさまざまな組み合わせの試せる言語をできるだけ多く所有する必要がある。したがって、その意味では語彙が増え概念が増える年寄りの方が若い人よりも豊かな可能性を持っていると言える。〔145字〕

4章

【問題】(演習)

出典：『竹取物語』

現代語訳

(陰暦) 八月十五日少し前の月のころに(縁先に)出て座って、かぐや姫はたいそうひどくお泣きになる。人の見る目も今は(もう)お隠しにならずにお泣きになる。この様子を見て、親たちも、「何ごとですか。」と問い正して騒ぐ。(すると)かぐや姫は泣きながら言う。「前々からも申し上げようと思っていましたけれども、(もし申し上げたら)必ず(お二人の)お心が乱れなざることであろうと思つて、今まで(隠して)過ごしてまいつたのでございます。(しかし、いつまでも)このように隠してばかりいられますようか(いや、隠してばかりいられない)と思ひまして、打ち明けるのでございますよ。私の身はこの人間の世界の人ではありません。月の世界の人なのです。私が月の世界の人であるのに、前世からの因縁がありましたので、この人間世界にやつて来たのです。(しかし)今はもう帰らなければならない時になりましたので、この月の十五日に、あのもと月の世界から、迎えに人々がやつて来ようとしています。やむをえず帰つて行かなければなりませんので、(お二人が)お嘆きになるのが悲しいことなので、この春から思い嘆いているのでございます。」と言つて、ひどく泣くので、翁は、「これは何ということをおっしゃるのですか。(私があなたを)竹の中から見つめ申し上げたのですが、(そのときあなたは)業種の大ききでいらつしやつたのに、(今では)私の背丈に立ち並ぶ(大きき)までに養ひ申し上げたわが子を、いったいどのような人が、お迎え申し上げましょうか(お迎え申し上げる人はあるはずはありません)。どうして(そのようなことは)許せましょうか(許せません)。」と言つて、(さらに)「姫がいなくなるのなら、いつそのこと)私の方が死んでしまいたい。」と言つて、大声をあげて泣き騒ぐさまは、いかにもこらえきれない様子である。

問 1 (a) ㉠いひてゐて (b) ㉡らう

問 2 A ㉠形容詞 B ㉡動詞 C ㉢動詞

D ㉣助詞 E ㉤助動詞 F ㉥助詞

G ㉦形容詞 H ㉧助動詞 I ㉨助詞

J ㉩動詞

問 3 はづき 問 4 さつきさきもゝはべるなり (2行目～7行目)

問 5 (1) 問 6 (3) ㉠かくや姫 (5) ㉡翁 (親) 問 7 已然形

理解を深める

自分は月の都の人であり、月の世界に帰らなければならないが、自分を育ててくれた親たち（翁たち）がそれを悲しみ嘆くだろうことを考えると悲しくてたまらないから。〔72字〕

5章

【問題】(演習)

出典：『徒然草』／山梨県立高校・04年 改題

現代語訳

鎌倉中書王(＝宗尊親王)の所で、蹴鞠が行われた時、雨が降った後で、まだ庭が乾いていなかったので、「どうしたものか」と思案していたところに、佐々木隠岐入道が、のこぎりのくずを車に積んで、たくさん差し上げたので、これを庭の一面にまき敷いて、泥土の煩いがなくなった。「(地面を乾かすために、のこぎりのくずを)取りためていたという心がけは、すばらしいことだ」と、人々は感心しあっていた。

この出来事がある者が語り出したときに、吉田中納言が、「乾いた砂の用意はしていなかったのか」とおっしゃられたので、恥ずかしい思いをしてみました。すばらしい用意と思われたのこぎりの屑くずは、みすばらしく、(それが敷き詰められている庭も、考えてみると)異様なものだ。庭の行事をとり行なう人は、乾いた砂を用意しておくのが、昔からの慣例ということだ。

解答

問1 D

問2 佐々木隠岐入道が、雨で濡れた地面を乾かすために、のこぎりのくずをためておいたという心がけは、すばらしいことだ。

問3 作者が、佐々木隠岐入道のものこぎりのくずの準備をすばらしいと思いきこんでいたこと。

問4 (ウ)

問5 (ウ)

理解を深める

庭の行事を執り行う人は乾き砂子を用意しておくものだという、本来知っておくべき故実を知らずにいたから。〔50字〕



会員番号	
------	--

氏名	
----	--